

別記

第1号様式（第14条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

( 宛 先 ) 京 都 府 知 事	令和3年7月30日
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地	氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） 株式会社 G S ユアサ 取締役社長 村尾 修

環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称	ISO14001
適 用 範 囲	京都事業所
導 入 年 月 日	1998年6月12日
認 証 番 号	JQA-EM0173
基 本 方 針	当事業所の活動（バッテリーをはじめ、電源システム、照明機器等の開発・製造・販売）、製品及びサービスが環境に与える影響を的確に捉え、次の方針に基づき環境マネジメントシステム及びパフォーマンスの継続的改善を図ります。
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	2020年度取り組み目標（抜粋） ①省エネルギー ～2018年度比CO2排出量：3.0%以上削減 ②上下水量削減 ～2018年度比総量：3.0%以上削減 ③環境保全 ～フロン排出抑制法、水質汚濁防止法対応 ④製品開発・販売 ～環境対応車向け自動車バッテリーの開発、道路向けHID代替LEDの拡販支援
目標を達成するための取組の内容	①省エネルギー ～ ・省エネ設備の導入 ・設備等の運転方法改善 ・不良率の低減 ②上下水量削減 ～ 循環水化の推進、水使用抑制 ③環境保全 ～ 機器台帳の整備および改善、点検実施 ④製品開発・販売 ～ 計画に基づく開発・販売進捗
目標を達成するための取組の進捗状況	①省エネルギー ～計画通り省エネ設備・機器導入済 ②上下水量削減 ～循環水適正使用の推進、漏水の点検等進捗中 ③環境保全 ～体制整備及び法定点検を完了 ④製品開発・販売 ～計画通り進捗
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	①省エネルギー ～省エネ設備の導入や運用改善が進んだ。しかし、CO2排出量の目標は未達となった。 ②上下水量削減 ～事務間接部門での使用量が増加した。コロナ禍による手洗い等の影響と考えられる。上下水量の目標は未達となった。 ③環境保全 ～フロン排出抑制法に概ね対応できた。 ④製品開発・販売 ～計画どおりに進捗。社会に貢献できた。
事業活動に係る法令の遵守の状況	順守すべき法規制や規定などを定期的に見直し、モニタリング活動などを通じて、その順守状況を管理している。 結果、コンプライアンスに障る重大な違反は起こしていない。 また、環境関連の訴訟、罰金、過料なども発生していない。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	ISO14001に定めるマネジメントレビューにより、原則として毎年1回評価・見直しを行っている。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。